

組織目標評価報告書（令和7年度）

部局名：安全衛生推進機構		部局長名：小代 哲也
目 標		目標に対する達成状況(成果)及び新たに生じた課題等
①教育領域	関連する 中期計画の番号	教育領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
・安全衛生・防災・危機管理に関する講義、講習会、研修会等の教育機会を提供し、教育内容を充実させることで構成員の安全管理・安全衛生・防災・危機管理に関するさらなる意識の向上に取り組む。【安全衛生・防災部門】		・新規採用教職員向けに安全衛生に関する資料を作成し、新規教職員研修に提供した。 ・津島地区総合防災訓練の事前学習資料(日本語・英語・やさしい日本語)をmoodleで全教職員・学生に提供した。受講者は教職員・学生合わせて約3,500名(前年度より約25%増)であった。 【安全衛生・防災部門】
・ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンのキャッチアップ接種が年度内で終了することを課題として接種完遂率を向上すべく講義内容啓発資料を更新して教育する。 ・感染症に対する意識付けを図り感染症対策の向上を図るために、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、麻疹等、拡大が懸念される感染症及び感染対策に関する情報の周知を徹底する。【保健管理部門】		・令和7年度まで実施が延長された、ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンキャッチアップ接種について啓発するため公費接種の期限変更及び自費接種の適応拡大など最新の情報を含めて更新をして教育した。 ・インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、麻疹等の感染症の状況を把握し、学生健康保健ネットワークにより、随時、学内に情報発信を行うとともに、健康・スポーツ科学等の講義において、感染症対策等に係る教育を行った。【保健管理部門】
・法定のものを含む環境分野並びに環境管理部門の業務に関連する教育訓練を関連部局と協力し、実施するため、環境分野並びに環境管理部門の業務に関連する教育教材を作成し、公開する。 ・本学の環境教育に貢献するため、環境分野並びに環境管理部門の業務に関連する学部教育・大学院教育に参画する。 ・全学的な環境マインドを醸成するため、環境分野並びに環境管理部門の業務に関連する教職員対象の講習等を実施する。【環境管理部門】		・環境分野並びに環境管理部門の業務に関連する教育教材を14件作成し、公開した。 ・環境分野並びに環境管理部門に関連する学部教育・大学院教育の講義を分担担当(出前講義6回、安全衛生入門1コマ)し、本学の環境教育に貢献した。 ・全学的な環境マインドの醸成に貢献するため、環境分野並びに環境管理部門に関連する教職員対象の講習等を15回実施した。【環境管理部門】
		学生の安全管理・保健衛生管理・環境管理に関する基礎知識の習得と意識向上のため、教養教育科目「安全衛生入門」を開講した。(4-6月)【三部門共同】
②研究領域	関連する 中期計画の番号	研究領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
・安全衛生管理や防災対策、危機管理に活用するため、学内施策の分析を行うとともに関連する情報を収集調査する。【安全衛生・防災部門】		・本学における化学物質管理について、化学物質リスクアセスメント並びに作業環境測定を基に実施状況を分析し、安全衛生管理の取り組みに活用した。 ・中国・四国地区国立大学法人等労働安全衛生協議会において安全衛生・防災に関して情報収集した。【安全衛生・防災部門】
・大学保健管理に関する研究を実施して成果を関連学協会等を通じて学外に発信し、安全衛生研究分野の発展に貢献する。 ・科学研究費をはじめとして各種外部資金の募集情報の周知及び応募の勧奨を行い、外部資金獲得の促進に取り組む。【保健管理部門】		・大学保健管理協会の中国・四国地区地方部会及び全国の研究集会において、本学における安全衛生研究分野の研究成果をそれぞれ4演題(計8演題)を発表するなど、安全衛生研究分野の発展に寄与した。 ・外部資金の募集情報について、部門の定例会等において周知を行った結果、所属教員全員(退職予定者を除く)が科学研究費補助金(文科省)の申請を行い、科学研究費補助金(文科省)の[基盤C]と岡山医学振興会助成金を獲得した。 【保健管理部門】
・本学の環境マネジメントに活用するため、環境分野並びに環境管理部門の業務に関連する情報を収集調査する(目標、報告書、その他資料等)。 ・本学の研究活動に貢献するため、環境管理部門教職員並びにその業務に係る教職員は環境分野に関する研究成果を公表する。【環境管理部門】		・環境分野並びに環境管理部門の業務に関連する情報を収集調査し、環境目標や環境報告書などの作成及び化学物質管理に利用し、本学の環境マネジメントに活用した。 ・環境管理部門教職員が環境分野に関する研究成果を12回発表した。【環境管理部門】
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
・地元自治体や関係機関等と連携して防災教育の機会を提供し、地域での防災に関する人材育成を支援する。【安全衛生・防災部門】		・指定避難場所である第二体育館の開設に関する対応を確認するため、岡山市危機管理室、地域町内会と避難所開設訓練を実施した。(5月29日)【安全衛生・防災部門】
・地域防災に貢献するため、地域住民を対象とした防災教育の機会を提供する。 ・地域における専門家の不足を課題として、専門分野の資格・知識を生かした専門委員等を積極的に担当する。【保健管理部門】		・メンタルヘルスを中心に岡山県の精神医療審査会など、地域の専門委員を6件担当するとともに、岡山県などの関連団体において講演を計9回実施するなど、地域における教育・啓発活動に積極的に参加し社会貢献に寄与した。【保健管理部門】
・ステークホルダーとの環境コミュニケーションを図るとともに本学が社会的責務を果たすことに寄与するため、環境報告書並びに環境目標等を作成・公表する。 ・地域における環境活動を推進するため、環境に関するイベントに対して学内外組織並びに学生と連携する。【環境管理部門】		・環境報告書を公表し、ステークホルダーとの環境コミュニケーションを図った。 ・学内外組織並びに学生との連携により、エコナイト及びグリーンキャンパス等を開催した。【環境管理部門】
		・地域との協働型防災イベント「避難所での健康と安全」(2月3日開催)において、避難所での健康管理について講演を行うとともに、防災教育の機会を提供した。 【安全衛生・防災部門及び保健管理部門共同】
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	管理運営領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
機構改組により令和7年度から現体制となっており、新体制下における各部門の有機的な連携を図るとともに機構全体として一体的な組織運営を行う。		・安全衛生・防災部門、保健管理部門、環境管理部門及び事務部の合同ミーティングを定期的に(月2回程度)開催し、課題や施策の共有を行った。
・安全衛生・防災活動の維持・発展のため、安全衛生や防災に係る有資格者の養成を支援し、必要な人材を確保する。【安全衛生・防災部門】		・減災及び防災力向上のため、全学で10名の防災士資格取得の支援を実施した。 【安全衛生・防災部門】
・感染症対策をはじめとする業務の増加による負担を課題として、非常勤職員の確保と業務分担の見直しによる効率化を図る。 ・産業医業務の負担と復職及び治療と仕事の両立支援の向上を課題として、非常勤産業医の雇用及び人事課との協働による体制の整備を推進する。【保健管理部門】		・ワクチン接種、外来診療、定期健康診断の対応など、多様化する業務の負担を軽減するため、非常勤職員(技術補佐員)を雇用し、予診、診察補助、ワクチン接種、薬剤等の在庫管理など、職員(保健師等)の業務分担の見直しを行い、平準化・効率化を図った。 ・非常勤産業医を雇用することで、産業医業務の負担軽減を図るとともに、休職者の復職支援業務へしっかり関わられるよう体制の整備を行った。【保健管理部門】
・環境管理部門教職員並びにその業務に係る教職員は協力して環境管理部門の業務を業務範囲とその分担を明確にした上で円滑に遂行する。【環境管理部門】		・明確な業務分担の下、環境管理部門教職員が協力して、環境管理部門の業務(廃液受入、排水管理、作業環境測定、化学物質監査、化学物質管理システムの運用・管理、環境報告書作成など)を円滑に遂行した。令和7年度から、フロン類使用機器の点検報告運用を、教員や各部局の管理部門等の間で手作業で行われていたExcelリスト回収と集計作業を、独自開発アプリによるオンライン直接報告方式へと刷新したことで、事務作業の抜本的な削減が行われ、且つ、転記等における入力ミスが排除されることによりデータ精度の向上が実現された。 【環境管理部門】
⑤センター・機構等業務	関連する 中期計画の番号	センター・機構等業務における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
・防災・危機管理体制の強化を図るため、事業継続計画(BCP)の見直しを進め、各種マニュアル等の整備や訓練計画の見直しなどの対策を講じる。 ・構成員間で安全管理、事故防止、防災に関する情報を迅速かつ確実に共有するため、ホームページやメールマガジンをはじめとする多様な情報発信手段を適切に運用する。 【安全衛生・防災部門】		・事業継続計画(BCP)の改訂を念頭に危機対策本部の運営体制を大幅に変更し、その内容を反映した総合防災訓練を津島地区で実施した。危機対策本部運営訓練では、自衛消防隊との役割分担の明確化、集約された情報の可視化など、他大学では類を見ない訓練内容を企画実施して、従来の課題を解消するとともに、新たな課題を把握し、BCPの見直しに反映する予定である。この成果の一部は、リスク対策.comのZoom配信番組「危機管理ニュース解説」(10月21日配信)にて発信を行った。・最新情報を部門webサイトに随時掲載し、事件・事故情報など全構成員で共有すべき情報をプッシュ型のメールマガジンで発信するなど、情報発信手段を適切に運用した。【安全衛生・防災部門】
・HPVのキャッチアップ接種が本年度末まで延長されたため、自治体と再度契約してセンターにおける個別接種を実施する。 ・各種感染症対策を強化する目的で、感染症流行情報に基づく注意喚起を行うとともに有償接種を含むワクチン接種を実施する。 ・メンタルヘルス対策の更なる強化を目標として、以下の取り組みを行う。 (1) ストレスチェックの集団分析結果に基づく有効なメンタルヘルス対策を実施する。 (2) 教職員のメンタルヘルス研修の内容を充実させて高い参加数を維持する。 (3) 受入留学生及び外国人研究者のメンタルヘルス対策として、電話医療通訳サービス、精神保健福祉士(PSW)の有効利用による健康支援を行う。【保健管理部門】		・HPVのキャッチアップ接種を自治体と再度契約し、学内で延べ44人に接種した。 ・感染症流行情報に基づく注意喚起を部局連絡会や学生保健ネットワーク等で行うとともに、インフルエンザやB型肝炎など、有償でのワクチン接種を2,579人に実施した。 ・ストレスチェックの集団分析を行い、各安全衛生委員会等において、事業場別の結果や傾向について説明を行うなど、メンタルヘルス対策に役立てた。・教職員のメンタルヘルス研修に安全配慮義務及び上司としての部下への関り方などを取り入れることで内容を充実させ、約500人の教職員が研修を受講した。・受入留学生及び外国人研究者のメンタルヘルス対策として、電話による医療通訳サービス(20言語対応)や精神保健福祉士(PSW)が帯同する契約を行い、外国人のメンタルヘルス対策に万全を期した。 ・ストレスチェックの詳細な集団分析などのメンタルヘルス対策の取組みが評価され、「おかやま健康づくりアワード2025(職場部門)」を受賞し、岡山県知事から表彰を受けた。 【保健管理部門】
・全学的な環境関連実務に貢献するため、環境マネジメント委員会等、環境施策に関係する委員会の円滑な開催を推進する。 ・本学の環境活動の公開に貢献するため、環境報告書を作成する。 ・本学の研究の発展に安全面並びに法令遵守の面で貢献するため、化学物質管理システムの効果的運用を行うとともに化学物質監査を実施する。 ・本学の環境安全衛生管理に貢献するため、関連部局と協力し、廃液受入、排水管理及び作業環境測定業務を行う。 ・本学の環境関連実務に貢献するため業務計画に示す法定報告及び届出を行う。 【環境管理部門】		・環境マネジメント委員会(1回)を開催した。 ・環境報告書を作成し、本学の環境活動の公開に貢献した。・化学物質管理システムの効果的運用を行うとともに、化学物質監査を1研究科27研究室に対して実施し、本学の研究の発展に安全面並びに法令遵守の面で貢献した。・関連部局と協力し、廃液受入(15回)、排水管理(津島地区排水分析検査(12回)、津島地区立入採水対応(4回)及び立入検査対応(2回)、鹿田地区立入検査対応(2回)並びに作業環境測定(22回)を行った。・業務計画に示す法定報告及び届出(「第一種指定化学物質の排出量及び移動量の届出書」)を行った。また、岡山市立入検査対応としての届出(「特定施設設置届出書」、「特定施設使用廃止届出書」、「特定施設設置(変更)許可申請書」)を行った。【環境管理部門】

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。
注2) 自己評価による達成度(5〜1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。